

中学校のがんばりに期待

現在、教育行政においては、新学習指導要領周知が大きな仕事の1つである。

本県では、先日、管理職を中心とした新教育課程説明会が行われました。

管理職となると、論点整理をはじめ、教育雑誌、新聞等、そして校長会や教頭会等で相当の情報を身に付けていて、今回の説明会の文部科学省の説明も新鮮みはなかったかもしれない。

今改訂で、小学校は、外国語教育、キャリア教育、プログラミング教育など、新たな取り組みが盛り込まれたため、各学校ではすでに動きが始まってと思われる。

また、高等学校においては、大学入試が大きく変わることが確実になったために、授業が大きく変わる事となる。ある方がいうには、以前、全国学テのB問題を見たときの小・中学校に起こった衝撃が、高等学校に生じているようだ。

さて、私の出身母体の中学校はどうだろうか。

新学習指導要領「第2章 各教科 第2 2 内容」及び移行措置の内容を見る限り、大きな変化がなく、見方によれば、何も準備をしなくても対応できるのではないか、という錯覚を生じさせてしまうかもしれない。

しかし、今回の学習指導要領は、相当以前から、「全教員が『総則』を理解し、その中で、担当教科が出来ることを理解し、実践しなくてはならない。」といわれてきた。総則には、新学習指導要領が改訂されるまでの経緯や20～30年後の社会で生きる子供たちに身に付けておかななくてはならない資質・能力が丁寧に説明されている。この点をしっかり読み解き、中学校の教育課程編成及び各教科の指導内容、指導方法、評価を考え、実践する準備をしておかななくてはならない。特に、子供の実態や学校教育目標との関わりで、いつ、どの内容で深い学びをさせるのか、評価を行うのか、カリキュラム・マネジメントをしておく必要がある。

そして、そのことで中学校教育の「質」を高めなくてはならない。

説明中心の授業やその授業において不必要な話あい活動等が盛り込まれ、この授業時間でいったい何が身についたのか分からない授業はあってはならないことになる。

ましてや、外国語教育をはじめさまざまな学びで相当力を付けた児童が入学してくる可能性があるので、従来の授業（指導方法）では対応できなくなる可能性がある。

一番心配していることは、小学校の先生に、「あれだけしっかり資質・能力を身に付けたのに、中学校ではそれを全く生かした授業をしていない！」といわれ、生徒は、授業がつまらなくなっていて、先生と授業を無視し、新たな「荒れ」が生じてしまうことだ。

また、高等学校からは、「高等学校が身に付けさせる資質・能力の基礎・基本が着いていない。3年間どんな教育をしていたのか！」といわれること、そして、学力検査の問題が確実に変わるので、それに対応した授業にしていかななくてはならない。従来行われていた問題練習やドリルの繰り返しのような中学3年生後半の学びでは対応できなくなるのではなかろうか。

いろいろ書いたが、これらのことは教育行政関係者だから知っている内容ではなく、新学習指導要領及び解説等を読んでいて感じることである。

とにかく、小学校で学んだ子供たちが、学校が楽しく、部活動も楽しく、学ぶことが楽しく、もっと学びたいな、勉強って役に立つな、と実感できるような授業を目指す必要があることは間違いない。

忙しい日々が続くが、中学校の先生方のがんばりに期待する。

最後に。先日の新教育課程説明会で文部科学省の担当者が言った言葉が今も頭に残る。

「今改訂で、一番頑張らなくてはいけないのは中学校ですね。」